INTERNATIONAL & INFORMATION STUDIES

学報
国際・情報

Vol.49

新潟国際情報大学
[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111　fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111　fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp　somu@nuis.ac.jp

平成23年1月1日　発行



学長　平山 征夫

「考える力」と「人間的信頼」

気分新たに人生の羅針盤をつくろう

学生諸君、教職員、父母の皆さん、新年おめでとうございます。新しい年をどんな気持ちでお迎えでしょうか。本年もよろしくお願いします。

本大学の全てのステークホルダーの方々の本年のご多幸を祈念しますとともに、本大学が高等教育機関の役割を一層果たせますよう、それぞれの立場で積極的に活動し目的に向かって協力し合って行きたいと思います。幸い会社と違って大学のステークホルダーは対立関係にはありません。学生諸君は勉学に励み、教員はより充実した教育に取り組む、職員はそれをサポートする、父母の皆さんは家庭から学生を支える、ということで「国際化情報化時代を切り開いてゆける自立した人材を育成する」という本学の目的に向かって皆さんの力の結集をしたいと思います。

私の好きな石川啄木は、ちょうど100年前当時の日本の状況を眺め「時代閉塞の現状」という文章を書きましたが、現在も時代閉塞状況は変わっていません。昨年は政権交代で期待された「変革」が「行き詰まり」に変わっていった1年でした。その背景には2008年の「リーマンショック」という激震が世界経済に大きな影響を及ぼし、ギリシャなどの「ソブリン・リスク問題」まで惹起（じゃっき）する など、予想以上に深刻かつ長期化していることがあります。こうした景気低迷が学生諸君の就職にも多大な影響を及ぼしているわけで、早期の景気回復を期待する一方、就職活動の支援充実に努めてきたところです。

しかし経済指標を長期に見ると、先進国では成長率や資本利益率等は経済の成熟と人口減少からトレンドとして趨勢（すうせい）的低下傾向にあります（代わって中国等新興国の成長率が上昇）。ということはこうした厳しい状況は循環的に起こっているのではなく、趨勢的現象であると考えるべきでしょう。それはあまり自分の好きな仕事を楽に選べる社会ではないかもしれませんし、夢も描きにくいかもしれません。でも欲張らず自らがやりがいを求めてゆけば、それなりに成熟した社会ですので実現可能な社会ともいえます。大切なことは豊富な知識と豊かな人間性を磨くことです。それによって得られる「考える力」と「人間的信頼」が人生の羅針盤になってくれるからです。学生時代はその土台づくりをする時です。学生諸君、新年を迎えて気持ちを新たにがっしりした土台づくりに取り組んでください。教職員、父母の皆さんはそのサポートをよろしくお願いします。

大学の20周年に向かっての「大学改革」もいよいよ本年は具体的に動き出すことでしょう。次の20年を見据えて本大学が教育力の充実と魅力を高め、より地域に貢献するための改革です。その実行に当たっては全てのステークホルダーの皆さんから積極的に参加いただきたいと思っています。

昨年、私の夢として書きました「みずき野の森」建設はまだスタートしていません。改革とともに歩み出したいと願いながら新年を迎えました。

CONTENTS

2・3面
北京師範大学と学術シンポ開く
FD研修会を初開催
デジコングランプリで連続入選
国際ビジネスメッセに参加

4・5面
「NUIS学園訪問」
　—2教員の海外研修報告
最終講義のご案内
教員の活動（2010年下半期）

6・7面
雇用・経済ともに回復願い…
　企業懇談会に200社 情報交換
　来春に向け「就活」スタート
私の研究テーマ
湧源（編集後記に代えて）

平成23年度入試日程案内

8面
卒業生の便り
「紅翔祭」を終えて
　実行委員長報告
国体のゴルフ選手で活躍

FD研修会を初開催

教育改善の情報　教員間で共有

「FD研修会～教育改善事例研修」の初会合が、昨年11月24日に本校222教室で開催されました。

教育改善に関する教員の先進的な取り組みを紹介し、その内容に関して質疑・意見交換などを行って、教員間で情報を共有し、各教員の教育改善についての理解を深めることを目的に実施されたものです。教職員38人が参加しました。平山学長のあいさつの後、4人の教員から教育改善事例の紹介があり、活発な意見交換が行われました。

紹介された教育改善事例は次のとおりです。

・「国際交流インストラクター育成を通じた学生の内発的自己発見教育」
佐々木寛 教授

・「授業としてのプロジェクトチーム活動実施報告」
西山　茂 教授

・「CEPの英語教育方法」
ハドリー・グレゴリー 教授

・「与えすぎない・刷りすぎない工夫」
佐々木桐子 准教授

教育改善事例の概要および研修会の資料等は、ホームページ「FD委員会」をご覧ください。FD活動は全学的な取り組みが求められておりますので今後とも関係する皆さまのご協力をお願いします。

北京師範大学と本学の学術国際シンポ開く

本学から平山学長ら11人が参加

北京師範大学と本学が共催の第2回国際シンポジウム「東アジアの社会変遷と経済発展」が2010年9月17、18日の両日、北京師範大学で開催されました。

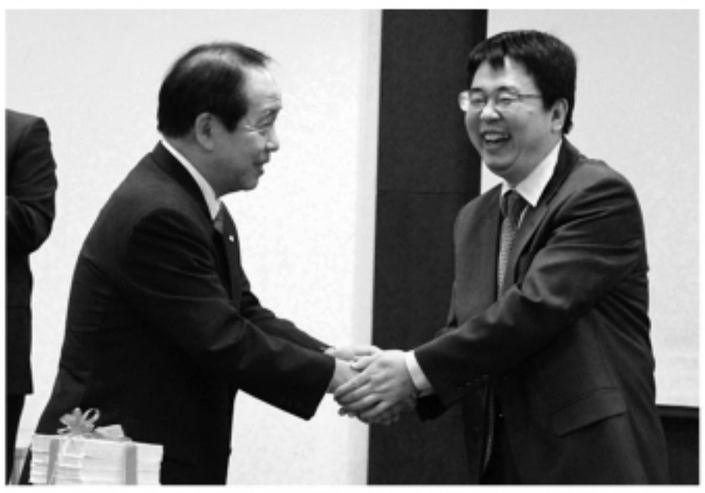
本学からは平山征夫学長をはじめ11人の研究者が出席し、全体会議と3つの分科会で報告と討論を行いました。北京大学在籍の韓国人研究者も参加し関心を示していました。具体的な内容は左記のプログラムに示されています。

広範な研究報告・コメント

友好的に率直に意見交換

開会式では、北京師範大学の楊共楽歴史学院長と本学の平山学長が挨拶し、北京師範大学の鄭師渠元副学長と本学の越智敏夫学部長がそれぞれ基調報告を行いました。

3つの分科会では、双方の研究者がそれぞれ報告を行ったうえ、互いにコメントを与えて率直に意見を交換しました。特に第2分科会で平山学長が注目され、多くの質問が寄せられました。中国人研究者は平山学長の視野の広さを評価しています。シンポジウムは終始、誠意をこめた友好的な雰囲気の中で行われました。


楊共楽歴史学院長（右）と握手する平山学長



多彩な報告に聞き入る


北京師範大の関係者と共に

「東アジアの社会変遷と経済発展」をテーマに

「にいがたデジコングランプリ」で入選

iPhoneアプリ「蚊とり」ゲーム





本学のコンピュータプログラム制作を目的としている同好会nuisp（プログラミングサークル）では、「にいがたデジコングランプリ」のiPhoneアプリケーション部門に作品を応募し、昨年に引き続き、入選を果たすことができました。

「にいがたデジコングランプリ」は、新潟のデジタルコンテンツ制作者の人材育成、地域の活性化、地域文化への貢献などを目的として、2001年から開催されているものです。

応募した作品は、「蚊とり」という名前のiPhoneアプリです。内容は、制限時間内に画面上を飛んでいる蚊を指でタッチしてつぶす、というシンプルなゲームです。つぶした蚊の数や残った時間によってスコアが加算され、素早く多くの蚊をつぶすことで高得点を目指します。また、タッチだけでなく加速度センサを利用し、iPhoneを振るという動作もゲームに取り入れています。

開発で苦労したことは、画面遷移や加速度センサの制御です。なかなかうまくいかず、試行錯誤を繰り返しながら開発に取り組みました。その他にも、ゲームとしてどのように完成させるか、悩むところも多くありましたが、最終的には、形のあるアプリケーションとして無事完成させることができました。

（情報システム学科3年　星　希美）



国際ビジネスメッセに参加

学んだ技術を実社会に披露

ソフトウエア開発を通し社会貢献

「新潟国際ビジネスメッセ２０１０」が10月28、29日に新潟市産業振興センターで開催され、本学情報システム学科の中田豊久講師と、同学科４年の小柳昭平さんと３年の星希美さんの二人が取り組んでいる「ソフトウエア開発を通した社会貢献への取り組み」についての展示を行いました。

「新潟国際ビジネスメッセ」では、ビジネスの拡大につながる最新の技術やサービスが、さまざまな企業や大学から展示されます。今回も１００を超える企業、大学、団体などが展示を行い、２日間の開催で約１万人の来場者がありました。

本学情報システム学科では、講義や演習でプログラミング関係の技術を学ぶだけではなく、学んだ技術を実社会で生かすことを試みる実用的な取り組みを行っています。

一つの例として、地域の企業と共同でソフトウエア開発をしている事例を紹介しました。小柳さんが、新潟大学前にある衣類のクリーニングやメンテナンスを行う「ＣＨＡＭ」と共同で、顧客情報を管理するＷｅｂシステムを開発しています。Ｗｅｂサーバ上で動作するサーブレットやＪＳＰ、また、データベースを用いるシステムであり、それらの技術を必要に応じ学びながらシステム開発しています。

二つ目の例は、ｉＰｈｏｎｅアプリケーションの開発事例です。こちらは明確なユーザーがいるわけではなく、アップルのＡｐｐ　Ｓｔｏｒｅを通してフリーソフトとして公開しています。フリーソフトとして公開すると、日々のダウンロード数を確認でき、ときにはユーザーのレビューが公開されることがあります。手厳しい意見を受けることもあり、プログラミング技術だけでなく、どのようにソフトウエアをユーザーに受け入れてもらうか日々考えています。

ビジネスメッセでは、これらの取り組みについて紹介しましたが、会場を訪れた幾つかの企業が興味を示し、今後につながる意見をいただきました。

国際シンポジウム・プログラム

開会あいさつ

北京師範大学　　楊共楽 歴史学院長
新潟国際情報大学　平山征夫 学長

基調報告

・北京師範大学歴史学院　鄭　師渠「第1次世界大戦後、西欧に解放を求める」中国人」
・本学情報文化学部部長　越智敏夫「近代アジアにおける市民概念」

第1分科会　東アジアの国際協力問題

前半 17 日午後　司会　越智敏夫

・報告① 高橋正樹「グローバリゼーション時代の中国と ASEAN の協力関係」(コメント・唐利国)
・報告② 吉澤文寿「日本と中国・朝鮮との国交正常化交渉における戦争・植民地責任問題」(コメント・王開璽)
・報告③ 茹瑩「不承認から承認へ―アメリカの対ソ連政策の変化(1917-1933)」(コメント・小澤治子)
・報告④ 佐々木寛「東アジアにおける2つの「核」問題と「共生」の条件」(コメント・邱　涛)
・報告⑤ 小澤治子「21 世紀の東アジアの安全保障と多国間協力―中国・ロシア・日本の役割を中心に」(コメント・茹　瑩)

後半 18 日午前　司会　小澤治子

・報告① 王開璽「明末清初の宗藩関係再構築における離棄の傾向」(コメント・吉澤文寿)
・報告② 邱　涛「戊戌政変と中日連盟活動」(コメント・高橋正樹)
・報告③ 申銀珠　「韓中日関係の近未来像―WIN・WIN 戦略を共有しよう」(コメント・王開璽)
・報告④ 安　然「象徴天皇制の形成原因に関する再検討」(コメント・佐々木寛)
・報告⑤ 唐利国「吉田松陰の思想の非近代性について」(コメント・越智敏夫)

第2分科会　東アジアの文化交流と経済協力

前半 17 日午後　司会　楊共楽

・報告① 李志英「20 世紀前半中国社会の経済発展と環境意識の発生」(コメント・平山征夫)
・報告② 平山征夫「市場主義後の資本主義と日中の役割」(コメント・李志英)
・報告③ 鄭　林「近代中国の社会転換と農業発展モデルの変遷」(コメント・李志英)
・報告④ 耿向東「日清戦後清朝の文化団体政策と「西学」の伝播」(コメント・張昭軍)

後半 18 日午前　司会　楊共楽

・報告① 孫燕京「清末以来の審美意識の西欧化」(コメント・李　帆)
・報告② 林輝鋒「学問・教育・参政―馬叙倫と北伐前後の浙江政局」(コメント・平山征夫)
・報告③ 張昭軍「近代日中両国における文明史学の出現と変化」(コメント・孫燕京)
・報告④ 李　帆「近代中国学術史についての若干省察」(コメント・張昭軍)

第3分科会　東アジアの社会変遷

前半 17 日午後　司会　朱漢国

・報告① 區建英「市民の公共精神の基礎―厳復の思考を手がかりとして」(コメント・梅雪芹)
・報告② 小山田紀子「脱植民地化研究の新たな視座―ヨーロッパと東アジアの比較史」(コメント・朱漢国)
・報告③ 梅雪芹「中国近現代環境史研究に関する卑見」(コメント・區建英)
・報告④ 朱漢国「民国時期北京周辺の農民生活の変遷」(コメント・李小蔚)

後半 18 日午前　司会　區建英

・報告① 金沢璟「清末の奉天警察の設立とその過程」(コメント・李小蔚)
・報告② 小林元裕「華北事変期北京の日本居留民」(コメント・李小蔚)
・報告③ 矢口裕子「「言葉」と「沈黙」を翻訳する―マキシン・ホン・キングストンの『女武者』」(コメント・梅雪芹)
・報告④ 張建華「ロシアの文献に見るロシアの早期朝鮮観」(コメント・小山田紀子)
・報告⑤ 李小蔚「新中国初期の都市貧民の生活救済について」(コメント・小林元裕)

全体総括および閉会式　18 日午後

総括　第1分科会　小澤治子
　　第2分科会　李　帆
　　第3分科会　梅雪芹

閉会あいさつ

新潟国際情報大学　平山征夫 学長
北京師範大学　　楊共楽 歴史学院長

NUIS 学園探訪

本学の教育および研究水準の向上と発展充実のため、海外の大学や研究所に本学教員を派遣し、専攻する学問分野での調査研究を行わせる制度が運用されています。派遣期間は半年から1年間で、一定の条件を満たした教員が希望し、選考されて派遣されます。

今回の「NUIS探訪」では、この制度でカナダ・アルバータ大学に派遣され昨年7月に帰国した河原和好講師（情報システム学科）の終了報告と、9月からドイツのハインリッヒ・ハイネ大学さらにアメリカ・コーネル大学に派遣されている安藤潤准教授（情報文化学科）の経過報告を紹介いたします。

カナダ・アルバータ大学に


アルバータ大学の教員と歓談

情報システム学科・講師　河原　和好

このほどカナダのアルバータ大学エクステンション学部に1年ほど海外研修として滞在した。こちらは情報システム学科の学生が夏期セミナーを実施している場所であり、私自身も2回ほど学生の付き添いで行ったことがあったため、時間に余裕を持って滞在しながら生活できる場所であると思い、こちらでの滞在を決定した。ここでは、今回の滞在での異文化体験について紹介したいと思う。

まずは生活についてである。今回は1年間だったのでアパートを借りた。手続きは、インターネットのサイトで物件を調べ、電話をし、物件を実際に見て交渉するという段取りであった。家賃の支払いは小切手だったので銀行口座を開設し生まれて初めて小切手を持つこととなった。銀行振り込みというものもあるようだが普及していないようである。銀行口座はデビットカードも兼ねていて、町中のショッピングで手軽に使用できる。ショッピングセンターでの支払いを見ていると、現金、クレジット、デビットが3分の1ずつという感じであった。無人のレジもあり、便利に買い物することができた。

インターネットは、カナダではケーブルテレビを使ったインターネット接続であった。ＡＤＳＬや光ファイバーによる高速通信は値段も高いし大都市だけに限られているようである。ケーブルテレビは多チャンネルで、日本の作品もたまに観ることができた。アニメ等は人気のようである。滞在時がちょうどバンクーバーオリンピック、ワールドカップと重なっていたのだが、テレビでほとんど観ることができた。ほとんどのテレビ放送は字幕を表示することができて、英語の勉強にもなった。



異文化体験 大きな意義

日本の方が進んでいるネット、携帯

最近では日本の携帯電話を海外に持って行っても使えるのだが、相当な高料金になる。そのため、カナダで携帯電話を購入することにした。町中のショッピングセンターの至る所にキオスクがあり、そちらで契約をする形がほとんどのようである。料金プランは日本と同様に複数年の契約で安くなるものもあったが、今回はプリペイドの携帯電話を購入した。カナダにもセブンイレブンがあり、日本より多くのサービスを提供しているのだが、プリペイドの携帯電話を販売もしていて、そちらで購入した。インターネット、携帯電話については日本の方が進んでいる点が多いと感じた。

このように、日本の中で暮らしていると当たり前に思うようなことが、海外ではそうではない、ということを実感できた。また、あらためて日本の良さを感じることができるようになった。研究の成果も含め、今回このような体験ができたことは非常に大きかったと思う。

佐々木　桐子（情報システム学科・准教授）
- (2010年8月7日)「企業経営の実践および学生間・教員間の連携を育むシミュレーション演習の導入」私立大学情報教育協会,ICT利用による教育改善研究発表会（上智大学）
- (2010年12月28日)「新潟県の道路交通事情」情報システム学会,第6回全国大会・研究発表大会（専修大学）

中田　豊久（情報システム学科・講師）
- (2010年9月8日)「Destination Board System Based on Photographs」Knowledge-Based and Intelligent Information and Engineering Systems (KES2010), LNAI Vol. 6279, pp.449-456.

藤瀬　武彦（情報システム学科・教授）
- (20109月8日)「一般青年男性における理想異性体型の特徴」日本体育学会第61回記念大会（中京大学豊田キャンパス）

3）その他

區　建英（情報文化学科・教授）
- 講演「丸山思想史学と中国近代思想の省察」(2010年11月5日)丸山真男記念比較思想研究センター主催・丸山真男文庫記念講演会（東京女子大学）

大野　富彦（情報システム学科・准教授）
- 講演(2010年8月6日)「失敗からの学習−経営学からの一考察−」（国土交通省北陸地方整備局用地部）

越智　敏夫（情報文化学科・教授）
- シンポジウム司会(2010年1月28日)Japan's Long "Postwar": Japanese Studies in the U.S. and Japan-U.S. Relations (International House of Japan)
- 講演(2010年1月27日)「新潟の戦後政治と市民」新潟県共生型大学連携公開講座（長岡造形大学）
- 論説記事執筆『新潟日報』社外特別編集委員(2010年7月31日、8月28日、9月25日、10月30日、11月27日、12月25日朝刊)
- 選挙報道解説(2010年7月11日)参議院議員選挙特集番組解説（新潟テレビ21）

神長　英輔（情報文化学科・准教授）
- 講演会やシンポジウムでのチェア/パネラ/報告者(2010年10月9日～10日)「国際シンポジウム　ロシアと日本の研究者の目からみる日露戦争サハリン戦」サハリン・樺太史研究会(北海道大学・小樽商科大学)

アレクサンドル・プラーソル（情報文化学科・教授）
- 講演(2010年8月12日)「現代日本の社会」ウラジオストク市（ロシア語で）
- インタビュー(2010年11月18日)「ロ日文化比較について」（モスクワ・ラジオ）
- (2010年9月28日)『YAPONIYA: LIKI VREMENI』(2008年にロシアで出版)2010年度ロシア・ノンフィクション賞のコンテンダーとして推薦されトップ・フォーに入る。
  http://www.premiaprosvetitel.ru/news/#n43

教員の海外研修

ドイツ・ハイネ大学、アメリカ・コーネル大学に

高齢社会、格差社会を目の当たりに

情報文化学科・准教授　安藤　潤

昨年9月1日から1年間、「家事労働分担における夫のジェンダー・ディスプレーの可能性」をテーマに、本学の海外研修制度に参加している。最初の4カ月間はドイツのハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ校現代日本研究所に滞在し、今年1月からは場所をアメリカのコーネル大学に移している。

二人のK先生に管理研究塔玄関前にて万歳三唱で見送られたのが8月18日。27日に成田を出発し、29日にデュッセルドルフ到着。すでに約3カ月がたとうとしている。運動不足が気になるところだが、小さなけがや病気はあったものの、幸いにも今のところ大きく体調を崩さずに研究に励むことができている。



現代日本研究所の同僚と

充実している社会保障に疑問？

ドイツは環境先進国とよくいわれる。瓶やペットボトルは購入したスーパーなどでリサイクルボックスに投入すると現金が戻るシステムになっている。ただ、それがゆえにゴミは小さな「金のなる木」となっている。私もこれまで何度か両手いっぱいのビール瓶（なぜそんなに！）を抱えて回収コンテナに向かう途中、かなり高齢の方にそれを譲ってほしいと言われ、提供したことがある。そのたびにその高齢者から弱々しく返される「ダンケ」を耳にするたびに心が痛む。付加価値税19％が充実した社会保障を支えているといわれるが、本当にそうなのだろうかと疑問を抱かざるを得ない。

9月にはブンデスバンク（ドイツ連邦中央銀行）理事の一人がその著書や発言において、増加するイスラム系移民に対し差別的な発言を繰り返し、辞任にまで発展した。また、ベルリンのドイツ歴史博物館では、タブーを破って「ヒトラーとドイツ人展」が開催されていた。ドイツの「今」を考えるには最適な時期に滞在できているのもしれない。

昨年には好調さが伝えられたドイツ経済ではあるが、日常生活でそれを実感することはほとんどない。むしろ高齢社会、格差社会を目の当たりにすることの方が圧倒的に多い。

最終講義のご案内

今春、定年を迎えられる竹並輝之教授（情報システム学科）の最終講義が2月5日に行われます。

竹並先生は平成6年の開学時から本学の教壇に立たれ、先生のご指導を受けた多くの卒業生が社会で活躍しています。学内でも要職を務められるなど、本学の発展に多大な功績を残されました。

最終講義は次の日程で開催します。どなたでも聴講できますので、直接会場にどうぞ。多数のご来校をお待ちしています。

■2月5日（土）
午後1時10分～2時50分
■本校（みずき野キャンパス）
140教室



「コンピュータとの出合いから情報システムまで」

教員の活動（2010年下半期・本人申告による）

1）研究論文・図書

區　建英（情報文化学科・教授）
・本学の紀要に掲載された２本の論文が、学術論文を半永久的に保存・活用する論説資料保存会『中国関係論説資料第51号』に採録されました。①「清末の『種族』論とナショナル・アイデンティティ」（同紀要第10号）②「中国のナショナリズム形成―日清戦争後の移り変わりと辛亥革命」（同第12号）

大野　富彦（情報システム学科・准教授）
・（2010）「カルビー『お客様相談室』の取り組みにみる価値創造と組織の情報リテラシー」『戦略経営ジャーナル』第1号(電子版)（25頁）
・（2010）「株式会社レキサス」中央大学沖縄調査チーム「沖縄におけるニア・ショアリングとBPOの展開－イノベーションミックスの実態調査報告書」（17-22頁:47頁）

神長　英輔（情報文化学科・ 准教授）
・(2010)「開かれた海の富と流刑植民地　日露戦争直前のサハリン島漁業」原暉之編『日露戦争とサハリン島』北海道大学出版会

岸野　清孝（情報システム学科・教授）
・　(2009)『ビジネスゲームを使用した経営と組織の効果的教育方法の研究』新潟国際情報大学（全146ページ）。共著・佐々木桐子（同学科・准教授）、竹並輝之（同教授）、吉田博（同准教授）、高木義和（同教授）

アレクサンドル・プラーソル（情報文化学科・教授）
・（2010年7月）『MODERN JAPAN: ORIGINS OF THE MIND』（単著・英語）（出版社World Scientific）（352頁）

2）学会・研究会報告

安藤　潤（情報文化学科・准教授）
・（2010年12月2日）"Japanese Labor Market: Population Decreasing Society and the Globalization"（ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ校教養学部）
・（2010年12月6日）"Japanese Economy: Challenges and Prospects"（同）

區　建英（情報文化学科・教授）
・（2010年12月4日）シンポジウム「接触・模索・接合―19世紀における＜知＞の移動と文化受容」報告テーマ「中国における＜自由＞の受容―伝統の位相と厳復の＜会通＞」（大妻女子大学「草稿・テキスト研究所」主催）

越智　敏夫（情報文化学科・教授）
・（2010年10月10日）「リベラル・ナショナリストと文化左翼」日本政治学会2010年度研究大会(中京大学)

神長　英輔（情報文化学科・ 准教授）
・2010年10月16日)「コンプの道　サハリン島と中華世界」ロシア史研究会、ロシア史研究会大会(立教大学)
・共同研究の推進　科学研究費補助金（基盤研究B）「国境の植民地サハリン(樺太)の近代史:戦争・国家・地域」（研究代表者・原暉之）、「北東アジアから東南アジアを結ぶ華人ネットワークについての研究」（研究代表者・谷垣真理子）
・国立民族博物館共同研究「ポスト社会主義以後の社会変容－比較民族誌的研究」（研究代表者・佐々木史郎）

私の研究テーマ

人にやさしい設計手法を開発

情報システム学科・教授　上西園　武良

人にやさしい製品を生み出すシステムに及びつつあります。このようなモノづくりのための設計手法は従来から存在していましたが、近年あらためて問われるようになっています。これは二つの大きな変化、「社会的な背景の変化」と、つくり手である「メーカー側の背景の変化」があるためです。

社会的な背景の変化としては、高齢社会の到来、ユニバーサルデザインの考え方の浸透、生活の質の向上への要求の高まりです。一方、メーカー側の背景の変化としては、製品の差別化としての人に配慮したモノづくりの推進です。従来、他社との差別化のために製品の高機能化や多機能化を中心に行ってきた状況の中で、新たな差別化として、人の心身機能に配慮した製品の開発が必要となってきています。

製品の電気的・機械的な性能は、通常の工学（機械工学、電気工学など）によって設計値（図面データ）に変換することが可能です。しかし、人にかかわる性能は重要であるにもかかわらず簡単に設計値に変換することができません。そこで、私はこの変換の手法（設計手法）を開発することを研究しています。この設計手法によって、人にやさしい製品が効率的に生み出されることが目標です。

「心理学」を研究しています

情報システム学科・准教授　二瀬　由理

「心理学」を研究しています。心理学を研究していると話をすると、「人が何を考えているのか分かるのですか?」とか「人の心が読めるのですか?」と聞かれることがよくあります。しかし、決してそんなことはありません。

これまで、人間のさまざまな情報処理的側面（知覚・記憶・学習等）について関心を持ち、その情報処理的側面で生起する現象を数量化し、その結果を踏まえてモデル化するといったかたちで研究を進めてきました。したがって、一般の人が考える心理学というものとは少しイメージが異なっているかもしれません。

心理学の研究の面白さは、研究のテーマが全て自分の中にあるということです。従って、身近な体験や驚きが、すぐに研究テーマに結びつきます。実際、私自身が大学院に入って初めて研究に取り組んだ研究テーマは「漢字のゲシュタルト崩壊現象の分析」でした。皆さんは、長い間、同じ漢字を見続けていて、この漢字ってこんなんだったっけ?と感じたり、その漢字のまとまりがなくなっていくような印象を持ったりしたことはありませんか? このような質問をすると意外に多くの人が「ある」って答えます。しかし、私にはそんな経験が全くなかったのです。

「えー、そんなことはあるわけはないよ、調べてみよう」というのが研究のスタートでした。そしてこの研究を大学院にいる5年間ずっと続け、漢字ゲシュタルト崩壊現象は本人がそれを意識しているかどうかにかかわらず実際に生起しているかどうかにし、一定の成果を得ることができました。

以上が私の研究のスタート地点ですが、現在では、認知心理学的研究だけなく、自然言語処理（特に計算機による言語獲得）に利用可能な心理学の基礎研究、ユーザーインターフェイスなどに利用できる人間の認知特性の解明など、工学的知見を念頭においた研究にも関心を抱き、研究を進めています。

ゲシュタルト崩壊現象で成果

湧源（ゆうげん）

編集後記に代えて

広報委員長　桑原　悟

もう10年以上も前、当時東京郊外にあった、ある寿司店の店主からの提起である。

・◆・

若いころ、法律に触れるようなことはしないにしろ、他人を蹴落としたり、無慈悲にことを進めたり、かなりアコギなことをして成功し、名誉も地位も金も手に入れた後、成した財で多額の寄付をしたり、名声がゆえに乞われて社会貢献団体の名誉的地位に就いたりすれば、その人間は、素晴らしい、尊敬すべき人間であると評される。

昔を知っている者が何か言っても、成功者に対する嫉妬（しっと）と嘲（あざけ）られる。そして恐らく、この人間は、多くの人に惜しまれてこの世を去る。そうであれば、これが人生の正しい処世である。

周りに親切にし、他人を慮（おもんぱか）ってばかりいては、出世はおぼつかない。せいぜい周りの数十人から〝いい人だ〟と言われて終わるなどつまらない。

・◆・

これを聞いた瞬間、すぐに反駁（はんばく）できるはずと思った。ところが、そのときは黙らざるを得なかった。そして、10年以上たった今でも、反駁しようとする自分の人の良さには苦笑いはするが、反駁はできないでいる。ふと周りを見ると、そんな類いの大人も見掛けるようになった。あの店主の言うとおりなのかも知れないと心が揺らぐ。

ところで、これは、あの店主のオリジナルなのか、他に元があるのか、調べる能力の低さも我ながら情けない。「そんなことも分からないのか」と諭してくれる賢人に、そろそろ出会いたいと願う。

雇用・経済ともに回復願い…

厳しい就職状況の中、恒例の企業懇談会が昨年11月17日、新潟市内のＡＮＡクラウンプラザホテル新潟で開催されました。本学の学生就職や産学連携などでご支援をいただいている県内外の企業２００社・２８５人が参加し、教職員らと情報交換し懇親を深めました。

開会にあたり平山征夫学長が、まず本学の教育方針や研究活動などを説明し「専門知識と判断力、表現力を備え、地域から必要とされ、今の厳しい時代を乗り越えられる学生を育てている」と、経済状況は厳しいけれど学生雇用に尽力してほしいと挨拶しました。

企業懇談会に200社参加



ゲスト講師として経済評論家の叶芳和氏を招きました。「新しい日本の成長戦略」と題し、世界の成長力と日本経済の成長率の概要や、これからの日本が進むべく経済市場を環境ビジネスなどに見いだし、グローバルに展開することが必要などと講演しました。特に中国の環境市場などを例にあげ、アジアの成長力を取り込む新しい日本の成長戦略に、参加者は聞き入っていました。

懇親会では、関根秀樹理事長と白井健二就職指導委員長（情報システム学科教授）が参加企業に日ごろの協力に感謝を述べ、来賓代表の日本銀行新潟支店長・内田眞一氏のご発声で開宴。会場では本学の教職員と企業トップらが活発に情報交換し交流を深めることができました。

交流深めて情報交換

2月3・4日 学内合同企業説明会

「学内合同企業説明会」が2月3、4日の2日間、みずきの本校キャンパス体育館で開催されます。今年も県内外から２００社以上に参加していただき、来春卒業生の就職活動が本格的にスタートします。

リーマンショックから始まった世界的大不況もやや回復見込みで推移していますが、雇用に関してはいまだに大変厳しい状況が続いています。学内説明会には企業から参加依頼も多く、県内最大規模となっています。人事担当者が3年次生に企業情報や採用状況について詳しく説明し、各社の試験対策のヒントも教えていただける機会です。

来春へ「就活」スタート

最近の傾向として、企業が望む人物像はコミュニケーション能力が評価の重要なポイントとされていることが多く、これからの就職活動に向け、この機会に、積極的に企業ブースに訪問し、多くの企業の方と関わりを持ってこれからの「就活」に役立ててください。就職活動はつらい面もありますが、素晴らしい人生経験となります。将来に向かっての自己能力の向上の場として積極的に参加してください。



問われるコミュニケーション能力

平成23年度 入学者選抜試験概要（要約一覧）

※詳細は本学学生募集要項でご確認ください。※出願期間は消印有効。

入試区分		募集人員		出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続き期間
一般入学試験	前期	情報文化学科 35 情報システム学科 60	95	23年 1月 5日(水)〜1月21日(金)	23年 2月 2日(水)	新潟 上越 長岡	・国　語：国語総合(現代文)・現代文 ・数　学：数学Ⅰ・数学Ⅱ（数学Ⅱは微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	23年 2月 8日(火)	23年 2月 8日(火)〜2月17日(木)
	大学入試センター試験利用	情報文化学科 15 情報システム学科 20	35	23年 1月28日(金)〜2月15日(火)	23年 1月15日(土)、16日(日)の大学入試センター試験を受験していること		学科試験を課さず、平成23年度の大学入試センター試験の成績で判定、全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点（3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用。国語は近代以降の文章のみ利用。外国語（英語）はリスニングを含む。）	23年 2月22日(火)	23年 2月22日(火)〜3月 9日(水)
	後期	情報文化学科 10 情報システム学科 15	25	23年 2月14日(月)〜3月 1日(火)	23年 3月 9日(水)	新潟	・国　語：国語総合(現代文)・現代文 ・数　学：数学Ⅰ・数学Ⅱ（数学Ⅱは微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	23年 3月12日(土)	23年 3月12日(土)〜3月23日(水)

本学独自の奨学金制度（給付）

- ●学費特別給付奨学金（前期入試受験者対象）授業料全額又は1/2
- ●表彰奨学金（2〜4年生対象）10万円〜30万円
- ●海外派遣留学・海外研修奨学金（2年生対象）15万円〜23万円
- ●資格取得奨励奨学金（全学年対象）Ⅰ種5万円、Ⅱ種2万円
- ●学費臨時給付奨学金（全学年対象）授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせください。 TEL025-239-3111　E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp

卒業生の便り

情報システム学科1999年度卒業　**安澤　雄輔**

社会人として試される“人間力“

卒業から10年余りが過ぎ、大学に通っていた頃がだいぶ懐かしく思える今日この頃です。私は新潟市役所に勤務し、西区地域課で主に区内のスポーツ施設管理を担当しています。今は黒埼地区に建設中の運動公園内に新設される、スポーツ施設のオープン準備に追われる多忙な毎日を過ごしています。

公務員にもいろいろありますが、私のような地方公務員は市民に最も近いところで地域に密着した仕事ができることが特徴です。市役所の業務には非常に多くの分野がありますが、姉妹都市との国際交流や通訳、翻訳などの業務をこなす国際課や、ＩＴを活用した業務を担当するＩＴ推進課など、新潟国際情報大学で学んでいることが直接生かせるような職場もあります。

大抵は数年で人事異動があり、複数の分野を経験するため、中には全く知識のない職場への異動というのも当然あります。私も実際、新採用時の最初の職場は農業部門でした。当時農業には全く興味がなく基礎知識すら無く、先が不安で仕方のない日々を送っていたことを思い出します。

社会に出て働くということは簡単ではなく、理不尽なことやストレスがたまることも、時には投げ出したくなることもあります。でもそういうときこそそれまで積み上げてきた〝人間力〟が試されると思います。また仕事上ではプライベートも重要です。私は野球が好きで、今も職場のチームで野球をやっていますが、これがストレス解消にもつながり、チームメイトは仕事でも支えになってくれるかけがえのない存在です。

人間は一人では限界があるため、良き理解者を周りにつくることも非常に大切です。挫折や失敗も経験した方がいいと思います。経験が人を強くし、経験が人を成長させてくれるからです。そういう意味では、大学時代に前向きにいろんなことにチャレンジし、さまざまな経験をしてほしいと思います。それがその後の社会人として大切な〝人間力〟を養うことにつながるはずですから。卒業生の一人として皆さんを陰ながら応援しています。

学んだことが生かせる 市民に最も近い職場



千葉国体のゴルフ競技に参加

情報文化学科1年　**清野　未琴**

県代表の1打に緊張 体力鍛えリベンジ誓う

千葉県の総成カントリー倶楽部で2010年9月21～23日に行われた国体に参加しました。

国体でのゴルフ競技は、各県の代表選手3人による2日間合計36ホールの合計スコアで順位を決定する団体競技です。

団体戦は初めての体験でした。個人の1打1打が大変重要なショットとなります。個人戦なら1打のミスは自分の中の「くやしい」だけで終わりますが、今回はミスショットが「新潟県の1打」となってチームに影響を与えてしまうということもあり緊張や、プレッシャーから本来のゴルフをすることができませんでした。

この試合を通し、メンタル面の重要さ、そして他県選手の実力をあらためて実感しました。私に足りないものは基礎体力とパワーだと痛感しました。そのためこのシーズンオフでは体力強化に重点をおき、また来年リベンジしたいと思います。



右から2番目

紅翔祭を終えて

一生懸命に「粋」を演出

紅翔祭実行委員長
情報文化学科3年　**鎌田　有紀子**

第17回紅翔祭（10月23・24日）のテーマは「粋」でした。「普段の充実した学生生活を伝えたい」との意気込みのもと、皆さん準備を一生懸命進めてきました。そのかいもあり当日は、天候にも恵まれ、まさに学園祭日和となりました。

父母会とみずき会のご後援による文化講演では、俳優の児玉清氏を招いていただき「心に華のある人生を！」というご講演をしていただきました。お笑いライブでは、ジョイマン、ザ・パンチ、エハラマサヒロさんらをゲストに迎え、楽しいひとときを過ごすことができました。両日ともに体育館に大勢の方々が参加され、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思います。



また模擬店では、毎年恒例となりました地元農協さまの野菜販売、同じく地元障害者施設の豆腐販売を開催し、地域の方々にも非常に好評となりました。ロシアの代表的家庭料理ボルシチなど学生によるさまざまな模擬店も数多く出店し、イベントでも、ゼミでの研究展示、海外留学報告、民族衣装のファッションショーなど、本学の特色豊かな多くの催し物が出展されました。

ステージイベントでは吹奏楽部や合唱部などのコンサートが開催され、多くの方々に聞いていただき、どの団体も大盛況となりました。

紅翔祭の当日までの日々は、各団体や、実行委員も準備に追われ、慌しい気持ちと、成功できるのだろうかという不安でいっぱいでしたが、多くの学生や一般の来場者に足を運んでいただいて不安な気持ちも吹き飛び、晴れやかな気持ちで進行することができました。

